

ダムに沈んだ旧田子倉集落の  
自然と生活・文化を伝える

旧田子倉集落民俗資料館

# ふるさと館 田子倉



旧田子倉集落全景

只見町ブナセンター



## ダムに沈んだ田子倉集落

かつて、只見町を流れる只見川の上流部には「田子倉（地元呼称：たぐら）」という集落が存在しました。桃源郷とも呼ばれた田子倉集落は、只見町では只見川の最も奥まった場所に位置していました。冬季の最大積雪深が4-5mを超える厳しい自然環境の中でしたが、山菜・キノコ類、獣、魚類などの豊かな天然資源に恵まれ、農林業、採取、狩猟、漁撈を生業として比較的豊かな生活が営まれていました。

昭和34年（1959年）、その田子倉集落は戦後復興のために首都圏への電力供給を目的とする水力発電ダム（田子倉ダム）の建設によりダム湖の底へ沈みました。当時、田子倉集落に住んでいた50戸290人の人々は、やむなく住み慣れた故郷を去ることとなり、次の生活の場へと離散しました。戦後の只見町の歴史は、この只見川の電源開発における田子倉集落の消滅を抜きにして語ることはできません。





## 田子倉集落周辺の自然環境



田子倉集落は、福島県の西端、新潟県との県境部の山間地に位置していました。周囲は、横山(1417m)、浅草岳(1585m)、苧巻岳(824m)、高倉山(1574m)、会津朝日岳(1624m)などの山々に囲まれ、冬期は大陸からの季節風と日本海の湿った空気により多量の降雪がもたらされる豪雪地帯です。

田子倉集落は、只見川とその支流の白戸川、只見沢などの合流部の比較的広い氾濫原にあり、上流部から運ばれる肥沃な土壌が堆積し、その地味を利用し、稲作、畑作が盛んに行われていました。また、集落の背後にある手付かずの原生的な自然環境の中には、ツキノワグマやカモシカなど大型の哺乳類が数多く生息し、山菜やキノコ類などの天然資源も豊富に存在しました。また、尾瀬を源流とし、日本海へ注ぐ只見川の上流に位置している田子倉集落は、河川における漁業資源も豊富で、ダムができる前はイワナが多く生息し、日本海からは大型のサクラマスやウナギなど遡河性魚類が遡上していました。



## 田子倉集落の生活と文化



田子倉集落は山のふもとや沢の出合いに集落(上流から白沢、只見沢、宮原、本村および下原)が点在しており、山林原野と河川が採取、狩猟、漁撈の場となって人々の生活を支えていました。人々は農業に従事するとともに、猟期になると冬山に泊まり込んで獣を追い、捕らえたツキノワグマは山神様の授かりものとして敬意をもって持ち帰りました。遡上してくるサクラマスを狙ってマス漁が行われ、共同で捕獲した獲物を集落内の住民で平等に配分する「まわり川制度」という独自の文化を持ち、助け合って生活していました。また、奥深い山々から良質なゼンマイを採集し、家々では養蚕を行うなどして集落は発展し、その中で独自の伝統や文化も育まれました。

「ふるさと館田子倉」には、そうしたダム水没前の生活や文化を伝える資料が多く展示されています。中でも狩猟や漁撈に使用する道具類は豊富で、大変貴重なものもあり、当時の自然と密接した住民の生活を知ることができます。



様々な狩猟用具(上)とマスやイワナを捕ったヒキカギなど(右)



絹織に用いたヒ





# 只見流域における電源開発の歴史と人々の生活、只見線の歴史



# 田子倉ダム問題と文学作品



こうした田子倉集落の伝統的な生活・文化も、田子倉ダム建設によって突然、消滅することになりました。当館では、その田子倉ダム建設をめぐる経過、移転交渉や反対運動に関する資料も展示しております。

この移転交渉は、当時の大きな社会問題となり、注目を浴びました。そのことを題材として、著名な作家たちが田子倉ダムを舞台とした小説を書き残しています。その代表作が、小山いと子の『ダム・サイト』、城山三郎の『黄金峡』、そして、曾野綾子の『無銘碑』で、当館では、こうした文学資料も展示しています。特に曾野綾子は、当館の家屋の持ち主であった皆川文弥、弥親子とは懇意にしており、書簡なども残され、ここに展示しています。

日本屈指の豪雪地帯を流れ下る只見川は、戦後、膨大な流量が水力発電の水資源として注目を集め、電源開発が行われました。結果として、只見川には田子倉ダムを含めた11基のダムが建設されることになりました。ダム建設に伴い只見川沿いの地域社会では、人口が膨らみ、ダム景気に沸き、農林業を中心とする生活は大きく変貌しました。しかし、ダム景気もダム建設が終わるとともに急激に後退していきました。只見川の電源開発の歴史、田子倉集落と同様にダム建設により移転した十島・塩沢集落や石伏集落、電源開発により変貌した地域社会の有り様、さらにはダム建設により崩壊・変貌した全国の地域社会などについて資料と共に解説・紹介しています。



取材で只見を訪れた曾野綾子(右端)



皆川家に残された曾野綾子からの書簡



只見線は福島県の会津若松駅から新潟県の小出駅までを結ぶ鉄道路線です。大正期から計画・工事が進められ、戦争による工事中断、戦後は田子倉ダム建設の建設資材輸送専用路としての敷設などを経て、その計画立案から約50年を経過した昭和46年(1971年)に全線が開通しました。当館ではこうした歴史を解説し、関連する資料を展示しています。





# 田子倉集落を記憶する 「ふるさと館田子倉」



「ふるさと館田子倉」は、田子倉ダム建設により湖底に沈んだ田子倉集落の記憶を後世に残すことを目的に、皆川弥氏が自宅を改装し、私設の資料館として開設しました。展示する田子倉集落の資料の多くは、父親である田子倉出身の故皆川弥氏の収集によるものです。

只見町は、弥氏の遺志を引き継ぎ、当館を取得、田子倉集落の歴史と文化を伝える資料館として整備し、公開しております。日本の戦後復興と高度経済成長の礎となりダム湖に沈んだ田子倉集落を記念し、皆川弥氏をはじめ多くの田子倉集落出身者の故郷・田子倉への想いを次世代に伝える施設です。

当館は歴史民俗資料の展示施設であるだけでなく、人と自然との調和と共生を実現する国際モデル地域である只見ユネスコエコパークの活動拠点として、只見ユネスコエコパーク推進協議会の事務局が設けられ、関係者の連絡調整と関連事業の推進を担っています。また、2階には休憩室と会議室が設けられ、地域住民の交流の場としても活用されています。



田子倉集落の民俗資料室



只見ユネスコエコパーク推進協議会事務局の入るふるさと館田子倉



「自然首都・只見」伝承産品や只見町プナセンターの出版物などの販売コーナー



## ふるさと館田子倉

☎968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字田中1299番地  
tel/fax 0241-72-8466 URL <http://www.tadami-buna.jp>

開館時間：午前9時～午後5時(最終受付は午後4時まで)  
休館日：火曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始  
入館料：高校生以上 310円(260円)、小中学生 210円(160円)  
只見町内在住 小・中学生、高校生は無料  
未就学児 無料 ※ ( )内は20名以上の団体割引  
障害者手帳をお持ちの方は無料  
※ただみ・ブナと川のミュージアムと共通チケットになります